

令和6年第3回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和6年6月17日（月曜日）			開会	13:34	会議場所	別海町議会 委員会室 1		
				閉会	15:00				
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席			
委員外の出席	議長	西原 浩					合計	1 名	
事務局職員	局長	干場 富夫		主幹	木幡 友哉		合計	2 名	
傍聴者数	一般	0名		報道関係者	0名		合計	0名	

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過
委員長 12番 松原	13:34 開会 出席委員8名、欠席委員0名、委員外1名、会期1日 開会挨拶 ・日常議員活動調については、7月1日から開始することで各議員から了承を得られた。
委員長 12番 松原	議事1 常任委員会の委員会数や名称、所管事項等に係る事項について (1)委員会の在り方について (2)委員会数及び委員定数について
事務局 主幹 木幡	資料2により説明 ・第2回委員会において、議員定数については委員会主義の観点から、委員会数及び所属人数について議論を行い、そこから全体の定数を導き出す流れとされ、その際に出された意見を次のとおりまとめた。 (委員会数について) (委員定数について) 減らしてもよい 1名 減らしてもよい 0名 現状維持 3名 現状維持 2名 増やすべき 0名 増やすべき 4名 言及なし 3名 言及なし 1名 このことから、当委員会内における多数意見は「委員会数は現状維持とし、委員定数は増やすべき」となった。 ・委員会構成について、暫定的に次の3パターンを例示。ただし、あくまでも例なのでこれが全てではない。 (1)広報・広聴を含めた4委員会を維持し、全議員が2委員会に所属するパターン (2)広報・広聴を除き、2委員会に統合するパターン (3)現状維持のパターン ・「委員会主義の観点から、委員会数及び所属人数について議論を行い、そこから全体の定数を導き出す」に当たっては、①現状の各委員会の調査量に応じた妥当な調査時間や回数等を確認し、②今後課題となる「人口減少」等を鑑みた場合の必要最低人数の検討をした後、③複数所属とするか否かを検討して委員会数を決定、④最終的な議員定数を導き出すといった流れが主となるものと考えられる。 ・本資料の内容については、前回出された「委員会主義の観点から、委員会数及び所属人数について議論を行い、そこから全体の定数を導き出す」という意見を前提として作成しているため、このことが変更になると、調査に取り掛かる順序も変わってくる可能性があるため、まずは、今後もこの前提に添って進めることとしていいか協議願う。

令和6年第3回議員定数等調査特別委員会 要点記録

			・各委員が感じている課題は、調査時間や調査回数を増やすことで、解消される可能性があるかについて、「いくら時間を費やしても人数の問題が解消されなければ意味がない」とのことであれば、次の必要人数の議論に進むことができ、あるいは「調査時間を延ばすことで解消される」とのことであれば、各委員にかかる負担はどの程度か、全員がそれに対応することができるのかなどの議論に進むことができるものと思うので、この点についても協議願う。
委員長	12番	松原	・意見等あるか。
委員	9番	小椋	・委員会数について(3)の現状維持は、今後タブレット等を活用したとしても定数が減となった場合、個人的にかなり厳しいと思う。今抱えている問題の解決はしにくいかと考える。
			(1)については、全員今よりも負担が確実に増えるが、それさえ良しとするのであれば有力かと思う。 (2)については、1委員会の範囲が広がり所管分けが難しく混乱をきたすような気もする。結果的に月2回の委員会開催となると、結局は負担は多くなるかとも考えられる。 そうすると、議員側の負担としては(1)も(2)も相応かと考えられるので、違いとしては委員長が2人か3人かといったところ。 個人的には(1)が対応しやすいかと思う。 また、今回は書いていないが、副委員長も何度か言っていたように、議会運営委員会の構成も、現状のままで常任委員会数が減るとメンバーも減るといったことになるため、この特別委員会で考えなければならないと思う。 あとは、広報・広聴には副議長が議会運営委員会との橋渡し役として入っているが、実際の編集作業にはほぼ参加されないというのが通例で、7名であり、7名でないといった状態になっていて、今後各議員の負担が増えていく中で、この体制も見直していかなければならないかと思う。 議会運営委員会の中に広報・広聴常任委員長も加えればその問題もすっきりするかと個人的には思っている。
委員長	12番	松原	・議会運営委員会の構成については追って意見を聞かせていただきたい。
委員	11番	今西	・定数が減ることになったとしても3常任委員会が最低限かと思う。
			その上で委員定数を増やすとなると絶対重複するので、現実的な問題として、その中で各議員がどれだけ時間を割いて活動できるのかという話は必要かと思う。 今の構成においても日程調整に苦慮しているので、重複となると今以上に理解をしてもらって調整してもらわなければならない。 私はそこが一番大きなウエイトを占めるのではないかという気がする。
委員	2番	吉田	・少し違う目線で考えると、委員会が2つにまとまった場合、所管外だから聞けないといった話が減り、自己調査の幅が広がるかなと思ったところ。
委員	9番	小椋	・確かに負荷は増えるが、言い方を変えると委員会主義の中で、(1)も(2)も業務は1.5倍から2倍に増える。
			これを負荷が増えると捉えるのか、またはやれることが増えてやりがいが増えると捉えるのか、1期議員としてはどうか。
委員	3番	高橋	・他の議員と比較して、1期目議員は（会議等）出てくる機会は少ないので、そこまで負担はかからないというか、勉強になるという考え方。
委員長	12番	松原	・中村委員どうか。
委員	13番	中村	・話の流れから私の番とは思わなかったが、意見させていただく。
			パターンとしては例示された3つ以外考えられないので、ここからとなる

令和6年第3回議員定数等調査特別委員会 要点記録

と、2委員会というのは範囲が広くなりすぎることを懸念する。

3委員会の場合も、人数について議論が必要ではあるが、私は必ずしも5人だから議論が停滞するとは思わない。

経験上、5人でも活発に議論されており、調査は可能だが、欠席者が出た場合の問題があるので、そこは考えなければならない。

そうなると、3委員会重複がいいかということになるが、一議員の負担が非常に大きくなるというのがある。

また、2委員会に所属することから、実質所属していない1委員会の所管事務のみが一般質問の対象となり、質問がしづらくなると思うので、一般質問のルール見直しも必要かとも考えたりする。

委員 1番 市川

・個人的には負担が増えるというより、やりきれんのかという不安がある。
この立場になった以上、やれるところまでやりたいという気持ちはあるが消化しきれんかが不安。

ただ、勉強になり、視野が広がるという意味では複数所属はいいと思うが現状の5人のままとなると、やはり1人欠席されたときの心細さは何とも言えないものがある。

委員 2番 吉田

・先の2人とほとんど同じだが、負担感はあると思うが、議員になったのだからと言ってしまえばそれはそうだと。

例えば(1)のように複数所属となれば、それぞれの委員会で発言できるので大きなメリットになるかなと。(2)にしても同様。

委員 11番 今西

・若い世代が当然でしょうと思って臨んでくれるのはとても心強い。

次の世代の議員に、この意見を理解して伝えていくことができれば、お互いに理解しあうことができれば、重複だろうが、2委員会だろうが委員会としては回っていくと考える。

委員長 12番 松原

・副委員長どうか。

副委員長 8番 田村

・委員会数だが、全国的にみると2委員会は501市町村あり、委員数も全国平均6.9となっているのは、やはりそれなりの理由があるので、5人でも勉強して議論を深められればいいが、そうはいかない場合もある。

個人的には2委員会にしたからといって、活動量は調査項目をどうするかによるので、単純に1.5倍になるとは思っていない。

委員会の所管事務調査というのは、何のために実施するのかわからないからそれを教えてもらうということではなく、後にその事項が議案となった場合に、我々が賛成・反対を把握するためのもの。

調査事項を多くすればいいというものでもなく、深く掘り下げることが必要なのではないか。

委員会主義としているのであれば、任された中でしっかりやるのが原点かと思う。

定数のこともあるため、複数所属にしないと間に合わないということも分かるが、調査項目はいくらでも調整できると考えた場合、2委員会でも全く問題はないと思う。

ただ、委員長のポジションが一つ減ることにはなる。

あと、一般質問の話が出たが、所属委員会の所管事務に一般質問できないという原則はなく、事務事業に対してどんな観点からもできる。

委員会調査の中で聞けば分かるような内容の一般質問は控えようというところが根底にあると思う。

若い議員の勉強したいという意見もあったが、タブレットですべての記録が残っているの、重複所属しなくても、そういうものを活用して勉強する

令和6年第3回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員長 12番 松原

委員 9番 小椋

委員長 12番 松原

委員 13番 中村

委員長 12番 松原

副委員長 8番 田村

委員 9番 小椋

副委員長 8番 田村

委員長 12番 松原

事務局長 干場

委員 11番 今西

委員 9番 小椋

委員長 12番 松原

事務局 主幹 木幡

ことができる。

・行政の仕事も年々増えていく中で、全てに張り付くことは難しいので、副委員長が言ったような、調査事項を絞って調査を行うことも一つかと思う。

それができれば委員会数は多くなくてもいいかとも思う。

この特別委員会の設置が、人口減少等を鑑みて定数を考え直すということは増やすということにはならないので、2委員会になったとしても、合同委員会といった方法でカバーすることも考えられる。

1委員会7名程度の構成が理想かと考えるが、いかがか。

・委員会数が2か3かは置いといて、委員数は7名程度として同意を得ましょうということか。

・そうである。

・今後の進行のことでの確認だが、7名に増やすことを前提として、2委員会か3委員会かを検討していくという理解でよいか。

・人数は7名程度が良いという話が出ていたので。委員会数はこれから議論する。

・委員数は前回から7名程度という意見があったので、それをもって次に委員会数の話ということになるが、委員会主義ということとは、この委員会をしっかりとやってくださいと任されるということなので、重複して2つ抱えてというのは委員会主義の観点から若干ずれる気はする。

・私はそんなに違和感はない。所属委員会ごとの取り決めに重視すればいいので。

要は(1)も(2)もやることは一緒に、(2)の場合は、重複はないが受け持つ内容が増え、(1)の場合は、所属が増えて結局受け持つ内容が増えるというだけなので、それで委員会中心主義が揺らぐかということ、私はそこまで違和感はない。

広報・広聴はこれからは議会だよりを編集するのみの委員会ではなく、ユーチューブ配信も始まって、位置付けが今後もっと重要になると思うので、広報・広聴も他の委員会と同列として、フラットに全員2委員会所属がすっきりする。

・そういうことであれば、わからなくはない。その他の特別委員会等を消化できる見通しの中でやるのであれば、それは全然構わない。

・局長から何かあれば。

・委員数の7名というのは、全国町村議会議長会でも推奨される定数として示されているので、流れに添っていると思う。

今後、委員会数を議論する上で必要な情報があれば遠慮なく言ってほしい。

・他の自治体と比較して、本町は面積が広く予算規模も大きいので、委員1人にかかる予算額が多いので、委員定数が7人になれば1人あたりの負担も減り、しっかり予算を見ることができるかと思うので、そういう意味でも7名として進めていければいいかと思う。

・私も重複が良いとは言ってきたはいるが、今まで広報・広聴と3常任委員会は役割が違ったので、所管のある委員会に重複所属するということに、どのような不具合があるのかを、他の町村で同様に行っている議会があれば、元々そうだった場合もあるだろうが、途中からそうなった場合はメリット・デメリットを（聞取り等を行って）見落としがないように精査する必要があると思う。

・重複所属を可としている議会を調べることはできるか。

・重複所属が可能な自治体をピックアップすることはできるので、聞取りを

令和6年第3回議員定数等調査特別委員会 要点記録

	行うことは可能で、道内であれば見に行くことも考えられる。 ・それでは、次回までに資料として提出したいと思う。 ・同様に、状況を客観的に見るためにも2委員会体制のメリット・デメリットも知りたいと思うので、可能であればその資料も用意してほしい。 また、先ほど副委員長から一般質問に関する発言があったと思うが、委員会の統合または重複により一議員の受け持つ範囲が広がるのであれば、（所属委員会への質問は避けるという）一般質問の在り方についてはっきりさせる必要があると考えるので、議会運営委員会の采配になると思うが、お願いしたい。	
委員長 12番 松原		
委員 13番 中村		
	また、先ほど副委員長から一般質問に関する発言があったと思うが、委員会の統合または重複により一議員の受け持つ範囲が広がるのであれば、（所属委員会への質問は避けるという）一般質問の在り方についてはっきりさせる必要があると考えるので、議会運営委員会の采配になると思うが、お願いしたい。	
委員長 12番 松原		
委員 9番 小椋	・議会運営委員会での協議となると思うが、どうか。 ・次の議会運営委員会のタイミングで話題提供したいと思う。	
	現在の基本的な考え方は、前体制後半からの流れであるが、現在は一般質問が委員会調査に直接反映されたりと、位置付けの実態が変わってきていることもあるので、それに合わせた表現にする必要はあると思う。 いつから変えるというのは、まだタイミングではないが、議会運営委員会としての方向性を出して、この特別委員会に戻せるように話をしておく。	
委員長 12番 松原	・是非協議してほしい。	
委員 9番 小椋	・タイミングとしては、次の定例会後の振り返りの中で話題に出したい。	
	文章をこう直しますとまではいかないが、方向性はしっかり話したい。	
委員長 12番 松原	・よろしくお願ひしたい。	
	また、意見のあったとおり、委員会構成について、次回までに資料を提出したい。	
委員 9番 小椋	・今後、議員定数の話になっていくと思うが、何人が適正なのかをどう検討していくかの足掛かりが個人的にまだ見えていないので、次ぐらいから話し始められるといいかなと思っている。	
	例えば、他町村で直近で定数を減らしたところであれば、その理由や根拠を調べられれば議論しやすいかと思う。	
事務局 主幹 木幡	・探してできる限りピックアップしたいと思う。	
事務局長 干場	・どうしてこの定数にしたかといった内容について深掘りしていくには、視察に行って直接意見を伺うことも有効と考えるので、可能な限り情報収集したい。	
	併せて、別海町議会のこれまでの定数削減の経緯について、その時どう判断したかについてももう一度振り返ってみることも必要かと思う。	
委員 11番 今西	・中標津町については資料にしっかりと書いてあるので、そこも参考にして進めていければいいと思う。	
副委員長 8番 田村	また、議会活性化計画には重点計画として、将来の議員定数の減も視野に入れながら議会運営委員会、常任委員会の構成を見直すと明示されていることから、現状維持か定数減がベースとなると思う。	
	・意見がいろいろあったが、委員定数は概ね7名、委員会構成は2または重複して3のいずれかということ踏まえて次にある程度の方向性を決めたいと考えるが、よろしいか。 ・異議なし。	
委員長 12番 松原		
	議事2 定数・報酬等に関する最新資料について	
	(1)住民アンケートについて	
委員 一同	資料3-1、3-2により説明	
委員長 12番 松原	・第2回委員会において、町公式ラインの活用の話が出たことから、確認したところ、利用可とのこと。	
主幹 木幡		

令和6年第3回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		・今回は、平成25年時の議員定数等調査特別委員会で使用したアンケート用紙をベースにして、アンケート内容イメージ用の資料を作成した。 ・前回会議で地域めぐり懇談会をベースにすることとなっている。 なお、イベント会場でのアンケートについても話題が出たが、各イベントの趣旨に合ったものでなければ難しいと思うので、正副委員長で協議し、今回は行わないこととしたいと考えているが、いかがか。
委員長	12番 松原	・異議なし。
委員	一同	
委員長	12番 松原	・広報折込による全戸配布など、アンケート方法は多々考えられるが、いずれにしても、町民アンケートは取るということで理解してもらいたい、よろしいか。 ・異議なし。
委員	一同	
委員	2番 吉田	・アンケート対象年齢はどう考えているか。
委員長	12番 松原	・高校性を含めた有権者と考えていた。
委員	2番 吉田	・将来のことを考えた場合、将来の担い手となる若い世代から多く回答を貰ったほうが有用と考えるので、そこも考慮してもらいたい。
委員	9番 小椋	・ラインはそれなりに可能性はあるかもしれないが、基本条例の時のように直接回収をしないと、現役世代の職場に出向いてその場で回収するぐらいのことをしなければ現役世代からの回収は難しいと思う。 アンケートの目的が、参考なのか、我々が出した結論の裏付けなのかによって、内容もタイミングも変わってくると思うので、あまり決まっていない状態でアンケートを取って参考とするのか、後ろ盾として活用するのかを、目的、対象、回収方法も含めてははっきりさせてからのほうがいいのではないかと思う。
副委員長	8番 田村	・広報に入れても回収率は上がらないので、例えば高校3年生にお願いするとか、農協などの団体をお願いする等、回収率を上げることを考える必要もあると思う。 実施時期等のこともあるが、回収する努力をしなければならないと思っている。
委員	2番 吉田	・目的としては、町民の理解を求める内容になるのか。
副委員長	8番 田村	・今の現状の議員の待遇等についてどう思っているかを知りたいと思っており、その結果を見て議論の後押しとなればいいかと思っている。 例えば、聞かなければ報酬が高いと思われているのか、安いと思われているのか分からないので。
委員	9番 小椋	・私が思っていたのは、報酬や定数や委員会構成等について、町民に聞いてもわからないと思うので、そこは議会制度に詳しい我々議員で行う気でいた。 町民からは直感的なイメージしか聞けないかと思っているので、もう一步踏み込んだ回答を得るには、これから行う稼働実績調査後に、極論でいうと議員の時給が分かることから、その後にアンケートを取ればある程度客観的な声が聞けると思うが、調査終了が来年の7月になるので、それでは時期が遅くて悩ましいと個人的には考えていたところ。
委員長	12番 松原	・アンケートについてはもう少し後の会議で決定したいと思う。
委員長	12番 松原	議事3 その他
委員	一同	・何かあるか。 ・特になし。
委員長	12番 松原	・次回開催日程について、7月29日の臨時会終了後としてよろしいか。
委員	一同	・異議なし。
委員長	12番 松原	閉会挨拶

令和6年第3回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員長	12番	松原	15:00	開会
-----	-----	----	-------	----